

Kansai Economic Insight Monthly

2015/1/23

Vol.21 December/January

- ・APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。
- ・本レポートの内容は、公益社団法人関西経済連合会『関西経済レポート』と連携しています。
- ・レポート公開時期は毎月第二週金曜日を予定しています。
- ・執筆者は、稲田義久（甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長）、岡野光洋・林万平・木下祐輔・James Brady（各APIR 研究員）です。
- ・本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。
- ・本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
景気の現況	2
関空モニター	8
中国景気モニター	9
主要月次統計	12
Release Calendar	13

要旨

- ✓ 11月の鉱工業生産指数は前月比-4.6%と3カ月ぶりの下落。在庫は高水準であり、今後生産調整が行われる可能性がある。加えて海外需要が停滞すれば、生産に対する影響は大きい。
- ✓ 11月関西の貿易は、輸出は21カ月連続で増加した。輸入は3カ月ぶりに減少した。結果、貿易収支は2カ月ぶりの赤字となるも、前年同月から改善。
- ✓ 12月の景気ウォッチャー現状判断DIは3カ月ぶりの改善。先行き判断DIは6カ月ぶりの改善。同月の消費者態度指数も5カ月ぶりに前月比改善。消費者心理に下げ止まりの動きがみられる。
- ✓ 10月の現金給与総額は関西コアで8カ月連続の前年比プラスとなり、特に生活関連サービスを中心に伸びは前月から加速。
- ✓ 11月の大型小売店販売額は5カ月連続の前月比プラス。百貨店も5カ月連続のプラス。スーパーは4カ月連続のプラス。消費は増税後緩やかながら改善を続けている。
- ✓ 11月の新設住宅着工戸数は前年月-12.5%と2桁減が3カ月続いた。うち持家が同-33.2%と減少に寄与。
- ✓ 11月の有効求人倍率は2カ月連続で改善し高水準を維持。足下雇用情勢は堅調が続いている。失業率は2カ月連続の改善だが、非労働力人口増加が要因とみられる。
- ✓ 12月の公共工事請負金額は前年比-13.7%と2カ月連続の2桁減。公共工事受注は減速感が強まっている。
- ✓ 11月の建設工事は前年比+3.2%と31カ月連続の増加も、伸びは8カ月連続で1桁となった。全国的に伸びは停滞している。
- ✓ 関西空港へ入国する訪日外客数の歴史的な高水準が持続している。11月の訪日外客数は302,230人（前年比+46.6%）と22カ月連続で増加。
- ✓ 10-12月期の中国実質GDP成長率は前年同期比+7.3%となり、前期と横ばい。8%を下回る成長率が11期続いている。2014年通年の成長率は前年比+7.4%となった。

【関西経済のトレンド】

	2014年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生産	➡	➡	⬇	⬆	⬆	⬇	⬆	⬇	⬆	⬆	⬇	
貿易	⬇	⬆	⬇	⬆	➡	⬇	⬆	➡	➡	⬆	➡	
センチメント	⬇	⬇	⬇	⬇	⬆	⬆	⬆	⬇	⬇	⬇	⬇	⬆
消費	⬆	⬆	⬆	⬇	➡	➡	➡	⬆	⬆	⬆	⬆	
住宅	⬆	⬇	➡	⬆	⬇	➡	⬇	⬆	⬇	⬇	⬇	
雇用	⬆	➡	➡	➡	⬆	➡	➡	➡	➡	⬆	⬆	
公共工事	⬇	⬇	⬇	⬆	⬆	➡	➡	➡	⬇	⬆	⬇	⬇
中国	➡	➡	➡	➡	➡	⬆	⬆	⬇	⬆	➡	⬇	⬇

【鉱工業生産動向】

(1) 関西の生産動向

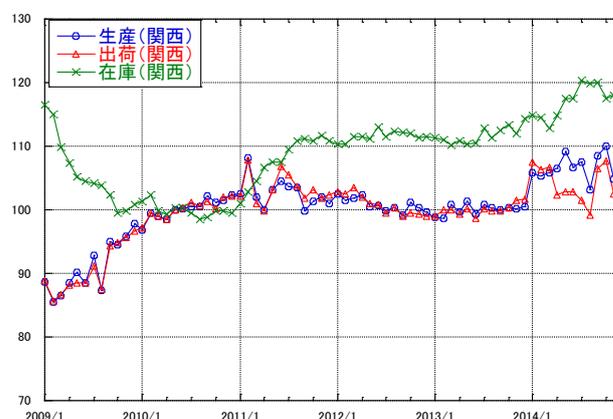
11月の鉱工業指数（速報値：季節調整済）を見ると、生産は104.9で前月比-4.6%、出荷は102.5で同-4.8%といずれも3カ月ぶりの下落。在庫は118.1で同+0.4%と2カ月ぶりの上昇となった。

業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(同-10.9%)、金属製品(同-12.0%)、電気機械(同-2.9%)等が下落した。一方、窯業・土石製品(同+2.1%)、プラスチック製品(同+1.6%)、石油・石炭製品(同+4.2%)等が上昇した。

生産・出荷は前月から一転減少に転じ、全国に比しても大きな落ち込み幅となった。生産指数の10-11月平均は、7-9月期平均比+0.9%の小幅回復にとどまっている。在庫は増加に転じ、高水準を維持しているため、今後、生産の調整が行われる可能性がある。

なお、関西の実質輸出と生産指数の動き(貿易動向・輸出を参照)には高い相関が見られることから、海外需要が低迷すれば、今後の生産動向にも影響する可能性がある。

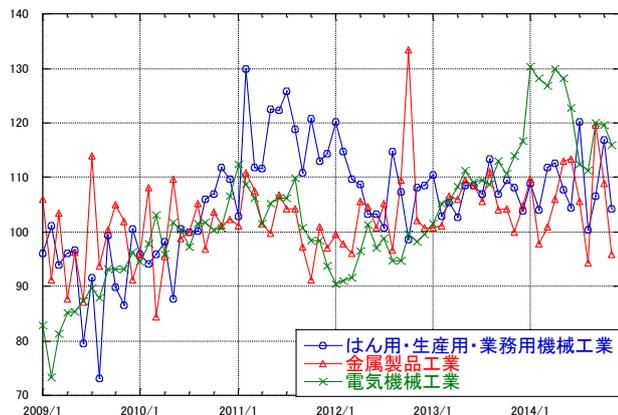
鉱工業指数の推移(関西：2014年11月まで、平成22年=100)



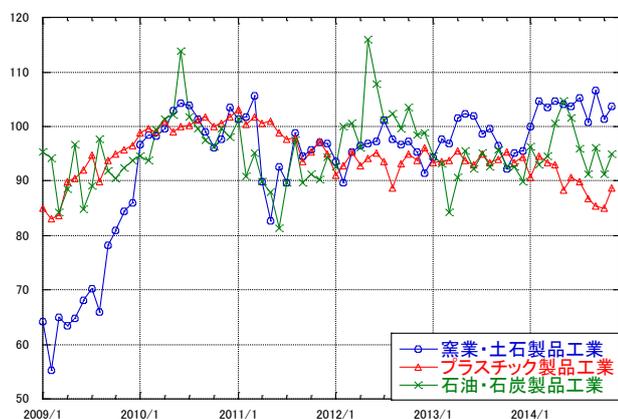
(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

業種別生産指数の推移(関西：2014年11月まで、平成22年=100)



業種別生産指数の推移(続き)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

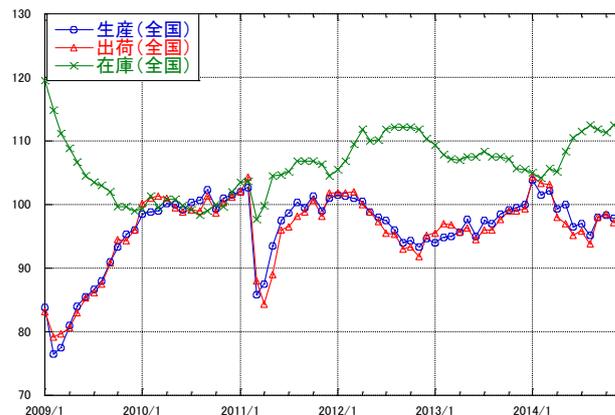
(2) 全国の生産動向

全国における11月の鉱工業生産指数(確報値、季節調整済)は97.9となり前月比-0.5%、出荷は97.2で同-1.4%といずれも3カ月ぶりの下落。在庫は112.5で同+1.1%と3カ月ぶりの上昇となった。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同-3.5%)、電気機械(同-2.6%)、金属製品(同-4.0%)等が減産となった。一方、食料品・たばこ(同+4.4%)、電子部品・デバイス(同+1.9%)、輸送機械(同+0.8%)は増産となった。

足元、生産は減少となったが、速報における製造工業生産予測調査では、12月(同+3.2%)、1月(同+5.7%)は増産の見込みである。

鉱工業指数の推移(全国：2014年11月まで、平成22年=100)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

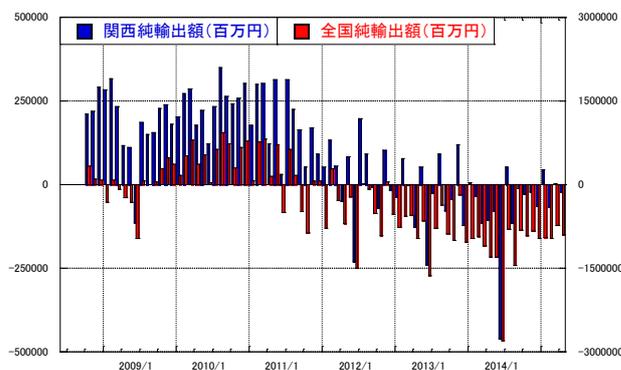
【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(確速値)によれば、11月関西の貿易収支は-219億円と2カ月ぶりの赤字となったが、前年同月比-79.3%縮小した。全国11月の貿易収支(確速値)は-8,935億円と29カ月連続の赤字も、赤字幅は同-31.3%縮小した。

関西純輸出(左軸：百万円)・全国純輸出(右軸：百万円)推移

(2014年11月まで)



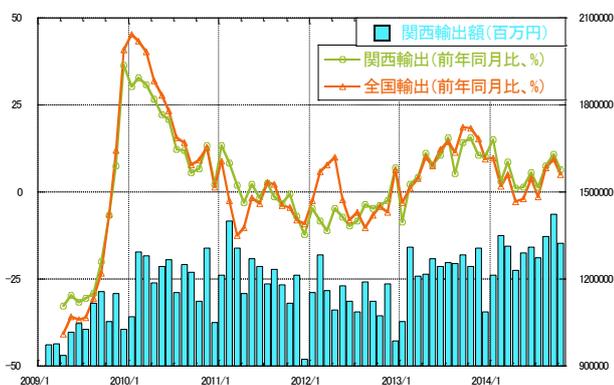
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(2) 輸出

関西11月の輸出額(確定値)は1兆3,226億円となり、前年同月比+6.5%と21カ月連続の増加。財別に見れば、輸出増加に主に貢献したのは、半導体等電子部品、科学光学機器であり、いずれも単月過去最高額を記録した。一方、船舶と鉱物性燃料が減少となった。

全国 11 月の輸出額(確定値)は 6 兆 1,886 億円となり、前年同月比+4.9%と 3 カ月連続の増加。財別に見れば、半導体等電子部品、科学光学機器、金属加工機械等の輸出が増加したが、船舶は減少した。

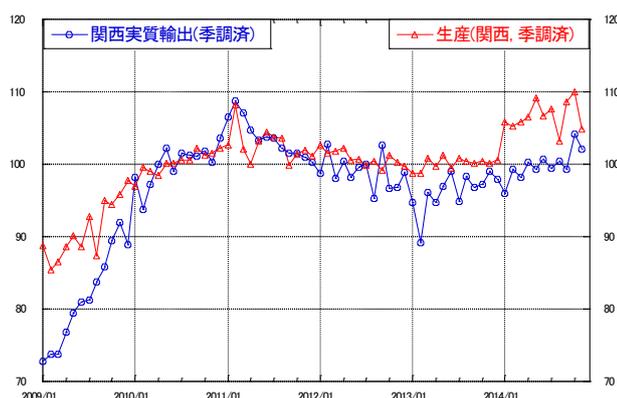
輸出(右、百万円)・前年同月比(左、%)推移(2014 年 11 月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

なお、関西の実質輸出と生産指数の推移を比較すると、両者の動きには高い相関が認められる。海外需要の動向が生産に与える影響については、今後も注視していく必要がある。

関西・実質輸出(左、季調済、2010 年=100)、生産指数(右、季調済、2010 年=100)の推移(2014 年 11 月まで)



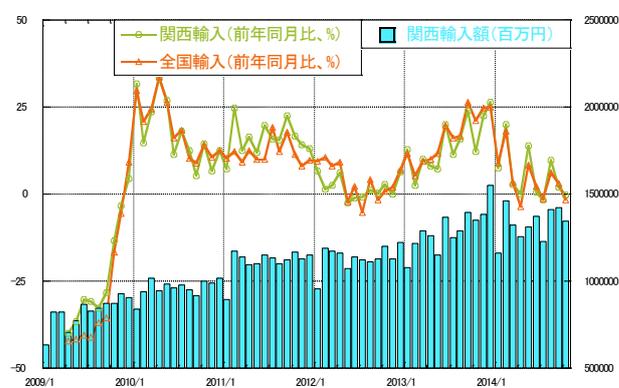
(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」、日銀大阪支店「実質輸出入」

(3) 輸入

関西 11 月の輸入額(速報値)は 1 兆 3,445 億円、伸びは前年同月比-0.3%と 3 カ月ぶりの減少。財別に見れば、天然ガス及び製造ガス(単月過去最高額)、有機化合物等が増加したものの、原油及び粗油、医薬品の輸入は減少した。

全国 11 月の輸入額(速報値)は 7 兆 821 億円、前年同月比-1.6%と 3 カ月ぶりの減少。財別に見れば、液化天然ガス、通信機が増加したものの、原粗油、石油製品、石炭等の輸入が減少した。

輸入(右、100 万円)・前年同月比(左、%)推移(2014 年 11 月まで)



(出所) 財務省「財務省貿易統計」

(4) 関西の地域別貿易

11 月関西の貿易収支を地域別に見ると、対アジア貿易収支は前年比+963 億円と 10 カ月連続の黒字であり、黒字幅は 5 カ月連続で拡大した(同+230.4%)。輸出は 3 カ月連続のプラス(同+7.2%)。財別に見れば、半導体等電子部品、科学光学機器等が増加した。輸入は 3 カ月ぶりのマイナス(同-0.7%)。財別に見ると、原油及び粗油、がん具及び遊戯用具等が減少した。

うち、対中貿易収支は-1,440 億円と 33 カ月連続の赤字。赤字幅は 5 カ月連続で前年同月から縮小した(前年比-20.6%)。輸出は 8 カ月連続で増加(同+6.7%)。一方、輸入は 3 カ月ぶりの減少(同-3.4%)であった。

対米貿易収支は+710 億円と黒字基調が続いており、黒字幅は 3 カ月連続で前年から拡大した(前年比+40.0%)。うち、輸出は 6 カ月連続の増加(同+18.8%)。財別に見れば、電池、鉄鋼等が増加した。輸入は 7 カ月連続の増加(同+7.0%)であ

り、財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、石炭等が増加した。

対EU貿易収支は+42億円と3カ月ぶりの黒字となり、前年から70億円改善した。うち、輸出は2カ月連続の増加(同+1.7%)。財別に見れば、科学光学機器、有機化合物等が増加した。輸入は3カ月ぶりの減少(同-3.7%)。財別に見れば、医薬品、たばこ等が減少した。

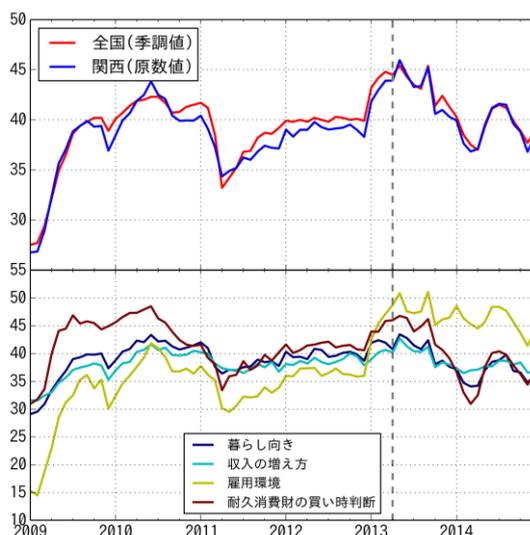
【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西の12月の消費者態度指数(原数値)は前月比+1.5ポイントの38.3と、5カ月ぶりの改善。全国(季節調整値)でも同+1.1ポイントの38.8と5カ月ぶりに改善しており、消費者心理に下げ止まりの動きがみられる。

関西で同指数の構成項目をみると、4つの指標うち3つが前月からプラスに転じ、1つは前月から横ばいとなった。「暮らし向き」は同+1.2ポイントと4カ月ぶりの改善。「雇用環境」は同+2.8ポイント、「耐久消費財の買い時判断」は同+2.0ポイントといずれも5カ月ぶりの改善。「収入の増え方」は前月のマイナス(同-1.8)から横ばいに転じた。

消費者態度指数(2014年12月まで)

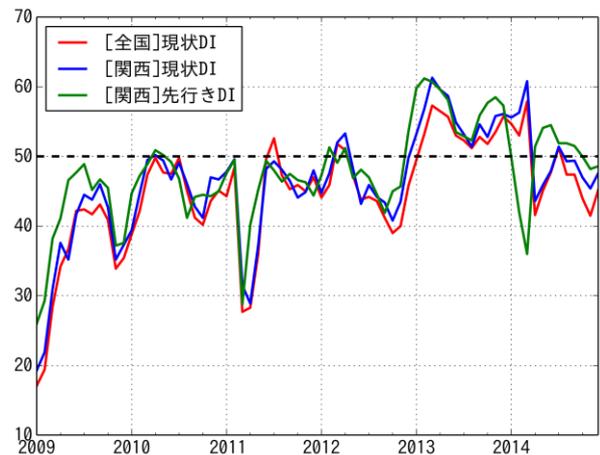


(出所) 内閣府「消費動向調査」

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の12月の現状判断DIは前月比+2.2ポイント上昇し47.6となった。3カ月ぶりの改善。冬のボーナス増加を背景にクリスマス・年末商戦が好調に推移したことに加え、訪日外国人の消費の拡大がセンチメントを好転させたようである。全国も同+3.7ポイントと5カ月ぶりに改善し45.2となった。

景気ウォッチャー調査(2014年12月まで)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

先行き判断DIは、関西では48.6と同+0.4ポイントの上昇。消費増税延期によるプラスの効果もあり、6カ月ぶりの改善となった。全国は46.7となり、同+2.7ポイントの低下。7カ月ぶりに改善している。

【所得・個人消費・住宅】

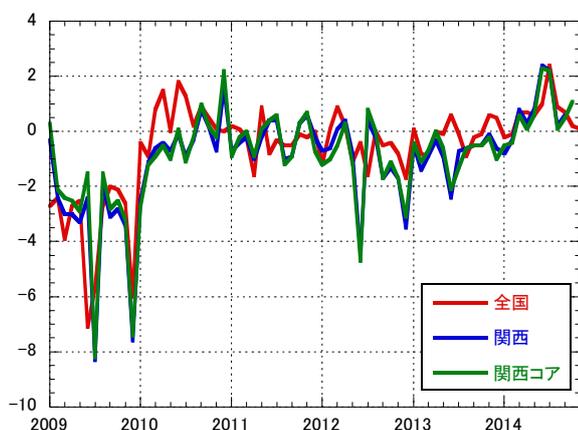
(1) 現金給与総額

10月の京都・大阪・兵庫の加重平均をとった「関西コア」賃金指数(APIR推計)は10月が前年比+1.1%と8カ月連続のプラスとなり、前月(同+0.5%)から伸びは加速した。産業別では、生活関連サービス等で大きく上昇しており、外国人観光客の増加が背景にあるとみられる。

全国(確報値)では、11月は9カ月連続のプラスとなったものの、伸びは同+0.1%(速報値:-1.5%)にとどまった。内訳をみると、所定内給与は前年比横ばいで6カ月ぶりに伸びが止まった。所定外給与は同+0.9%と伸びは減速した一方で、特別給与は同+1.6%と2カ月ぶりの上昇となったためである。冬のボーナスが伸びたことの影響とみられる。

現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は同-2.7%と前月からマイナス幅が縮小したものの、17カ月連続の減少であった。

現金給与総額(前年同月比：%、2014年11月まで)



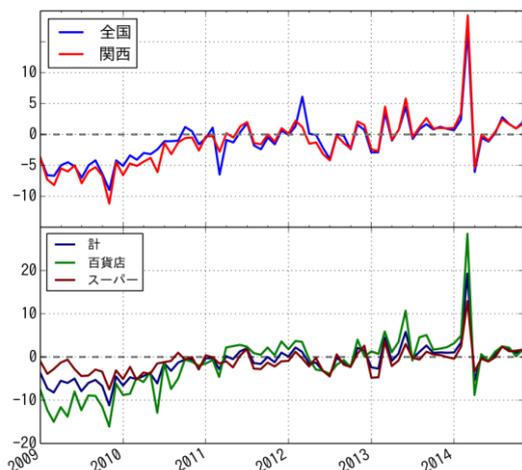
(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(平成23年平均)で加重平均。

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」(1月16日公表)

(2) 大型小売店販売額

関西の11月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+1.7%と5カ月連続のプラス。百貨店も同+1.7%と5カ月連続のプラス。スーパーも同+1.7%と4カ月連続のプラス。

大型小売店販売額 (前年同月比：%、2014年11月まで)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

全国でも、11月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+2.0%と5カ月連続のプラスとなっている。関西、全国ともに消費は増税後緩やかながら改善を続けている。

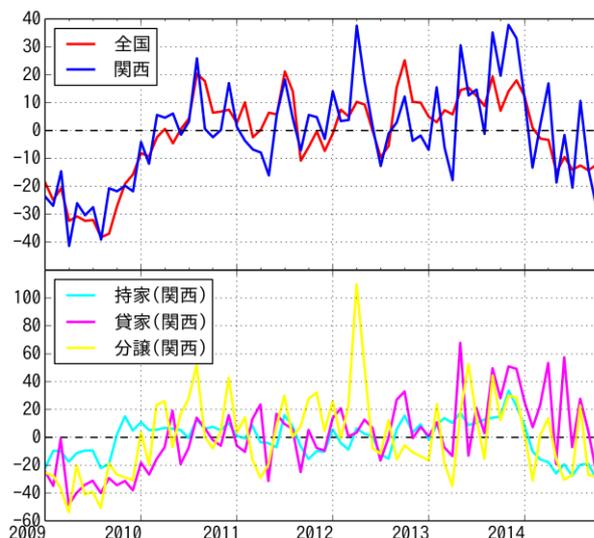
(3) 新設住宅着工の動向

関西の11月の新設住宅着工戸数は12,192戸。前年同月比-12.5%と2桁の大幅減が3カ月続いている。全国でも同-14.3%と9カ月連続で減少している。

関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は同-33.2%と10カ月連続で2桁の大幅減となっている。分譲も同-10.1%と2桁減が3カ月続いている。一方貸家は同+4.3%と2カ月ぶりに増加した。

なお、12月の関西マンション契約率は74.8%(季節調整値、APIR 推計)となった。好不調の目安となる70%を39カ月連続(原数値は11カ月連続)で上回り、販売は好調を維持。

新設住宅着工(前年同月比：%、2014年11月まで)



(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

【雇用動向】

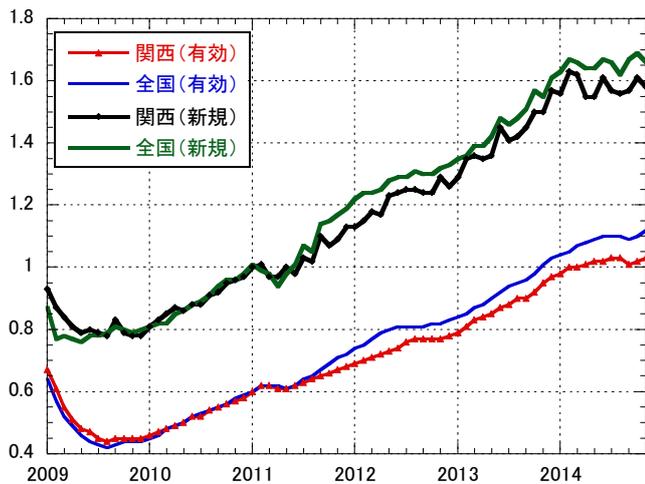
(1) 求人倍率の動向

11月の関西の有効求人倍率は、1.03倍と前月比+0.01ポイント上昇し、2カ月連続の改善となった。全国は1.12倍で前月比+0.02ポイント上昇し、こちらも2カ月連続の改善。1992年5月(1.13倍)以来の高水準を維持している。

11月の関西の新規求人倍率は、1.58倍と前月比-0.03ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化。全国は1.66倍と同-0.03ポイントでこちらも2カ月ぶりに低下した。

関西の有効求人倍率を府県別にみると、多くの府県で改善したが、奈良県で悪化。就業地別では大阪府で3カ月ぶり、兵庫県では2007年11月以来の1倍台を回復した。

有効求人倍率の推移 (季節調整値、2014年11月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況 (平成26年12月26日発表)

関西2府4県有効求人倍率(2014年11月)

11月	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
受理地別	1.12	1.03	0.94	1.08	1.12	0.92	0.84	0.95
就業地別	1.12	1.02	1.11	1.11	1.00	1.00	0.97	1.06

(2) 完全失業率の推移

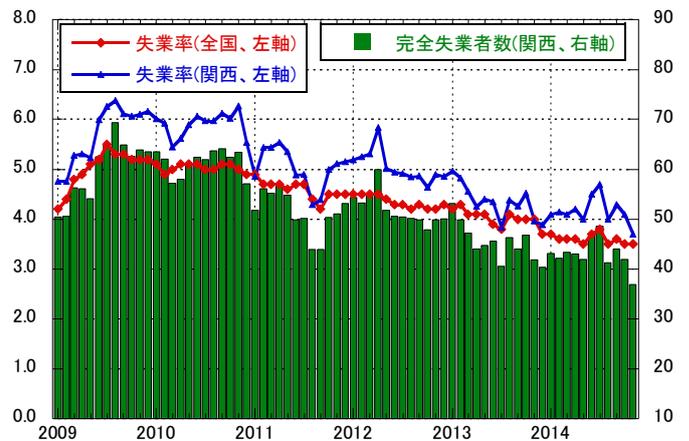
11月の関西の完全失業率(季節調整値: APIR 推計)は3.7%となり、前月(4.1%)から-0.4%ポイント低下し、2カ月連続の改善。非労働力人口の増加(労働力人口の減少)が就業者数の減少を上回ったためである。

関西の完全失業者数(季節調整値: APIR 推計)は36.9万人。前月(42.0万人)から-5.1万人と大幅な減少となった。

全国の完全失業率(季節調整値)は3.5%となり、前月(3.5%)から横ばい。非労働力人口の増加が失業率を押し下げた。

全国の15~64歳の就業率(原数値ベース)をみると、73.0%と前月(73.1%)と比べて下落したものの、高水準。15~64歳の女性の就業率は64.5%と前月と横ばいで過去最高が続いている。

完全失業率の推移 (季節調整値: %, 万人、2014年11月まで)



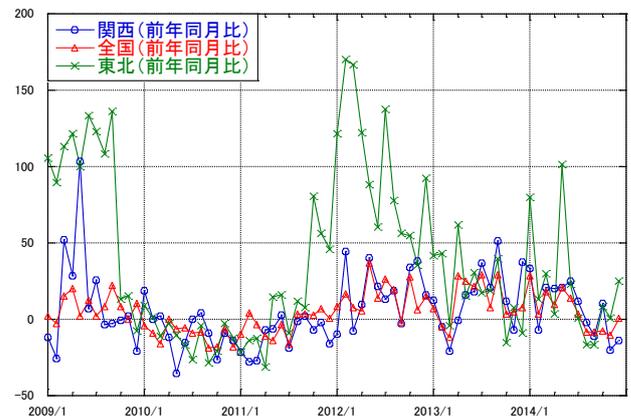
(出所) 総務省「労働力調査」(平成26年12月26日発表)

【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

12月関西の公共工事請負金額は972億円で前年同月比-13.7%と2カ月連続のマイナスかつ2桁の減少となった。全国は8,945億円で同+1.0%と5カ月ぶりの増加。東北は1,806億円で同+25.2%と大幅上昇し、3カ月連続の増加となった。

公共工事請負金額(前年同月比: %, 2014年12月まで)



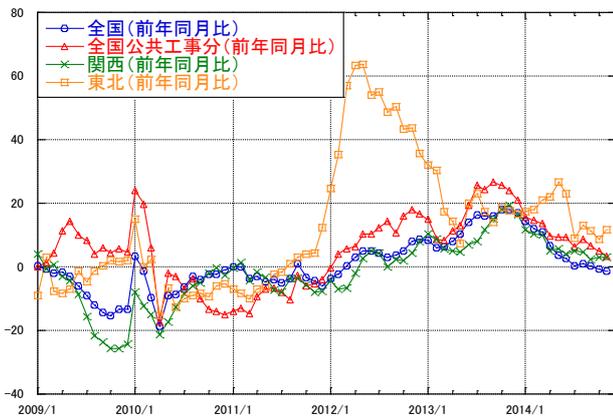
(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西、全国共に3カ月ぶりに前月から大幅な増加となった(関西: 同+25.0%、全国: 同+49.4%)が、10-12月期は対前期比(関西: 同-27.8%、全国: 同-26.4%)でいずれも2期連続で大幅減少となっており、減速幅は前期から拡大している。

(2) 建設工事

関西 11 月の建設工事は 5,878 億円、前年同月比+3.2%と 31 カ月連続の増加も、伸びは 8 カ月連続で 1 桁となった。東北は 6,596 億円、同+11.8%と 40 カ月連続の増加。全国は 4 兆 7,146 億円となり同-1.4%と 2 カ月連続の減少。全国の公共工事は 2 兆 2,474 億円で同+3.5%と 34 カ月連続の増加も、伸びは 8 カ月連続で 1 桁にとどまった。公共工事の受注の減少もあり、建設工事の伸びは停滞している。

建設工事(前年同月比 : %, 2014 年 11 月まで)



(出所) 国土交通省「建設総合統計」

【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

関西空港へ入国する訪日外客数の歴史的な高水準が持続している。2014 年 11 月には、訪日外客数が 302,230 人（前年同月比+46.6%）と、22 カ月連続で増加。一方、出国日本人は 251,960 人（同-7.6%）と、11 カ月連続の低下。円安の影響に加え、東南アジアの訪日ビザ緩和や、2014 年 10 月から免税対象枠の拡大等が影響したと考えられる。

訪日外客数と出国日本人数



(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

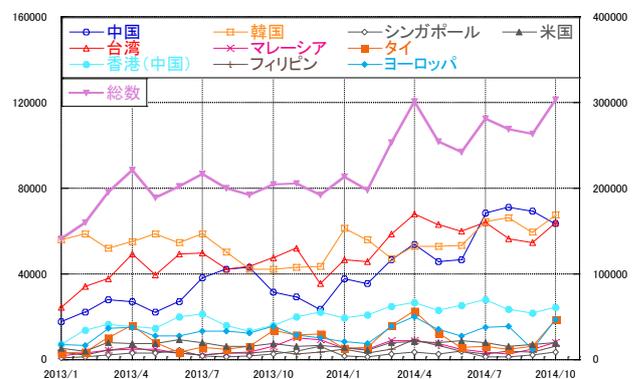
(2) 地域別訪日外客数 (関空、2013 年 11 月～2014 年 10 月)

訪日外客数を地域別にみると、10 月には韓国からの入国が 67,774 人（前年同月比+60.4%増加）と最も多かった。次いで台湾からの入国者数は 64,058 人（同+34.6%）であり、中国からの入国者数は、63,722 人（うち香港 : 24,666 人）と、同+101.9%（香港 : 53.0%）の大幅増加であった。

他のアジア各国からの入国者数は、タイ 18,531 人（同+35.7%）、マレーシア 7,893 人（同+25.7%）、フィリピン 6,073 人（同+56.1%）、シンガポール 3,449 人（同+17.6%）と、いずれも前年から増加した。

他地域を見れば、ヨーロッパ 18,765 人（同+19.9%）、米国 7,980 人（同+5.7%）も増加となった。

地域別訪日外客数



右軸 : 総数、左軸 : 各国

(出所) 法務省「出入国管理統計」

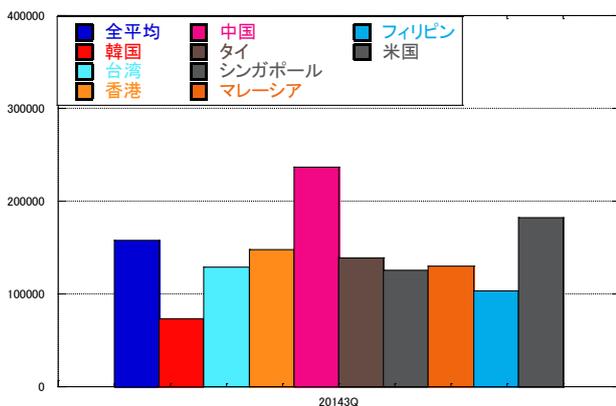
(3) 訪日外客支出

訪日外国人の平均支出額を見れば、2014年7-9月期に日本を訪れた外国人による平均消費額は15万8,257円であった。うち、同期間の訪日外客客数が最大である中国の平均支出額は23万6,353円であった。

関空への入国者数が多い他の国々について見ると、次いで支出額が大きいのは、米国の18万1,896円であった。その他、タイ13万8,820円、マレーシア12万9,741円、台湾12万8,560円、シンガポール12万6,161円の支出額が大きかった。なお、韓国の支出額は7万3,487円であったが、これは短期滞在が多いためと推測される。

なお、今週、観光庁が発表した年間データ速報によれば、2014年暦年の訪日外客平均支出は15万1,374円(前年比+10.7%)であり、国別で見れば中国の23万1,753円(同+10.4%)が最大であった。

国別訪日外客支出総額、2014年7-9月期(全国、円)



(出所) 観光庁「訪日外国人の消費動向」

【中国景気モニター】

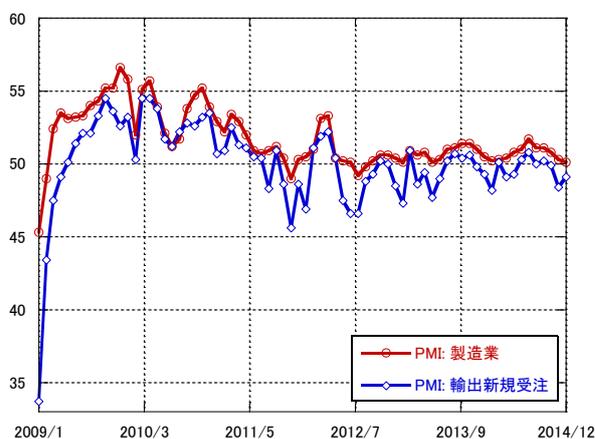
(1) センチメント

12月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.1となり、前月から-0.2ポイント低下し、3カ月連続の悪化。

うち、生産指数は52.2と同-0.3ポイント低下し、3カ月連続の悪化。新規受注指数は50.4となり、同-0.5ポイント低下し、5カ月連続の悪化。輸出新規受注指数は同+0.7ポイント上昇し(3カ月ぶりのプラス)49.1となったが3カ月連続で50を下回っている。雇用指数は48.1となり、前月から-0.1ポ

イント低下し、2カ月連続のマイナスとなった。2012年6月以来、31カ月連続で50を下回っている。大部分の領域で景況指数は悪化している。

中国製造業購買担当者景況指数(2014年12月まで：%)



出所：中国国家统计局、CEIC データベース

(2) 工業生産

12月の工業生産は前月比+0.8%となり、前月から+0.3ポイント上昇した(11月：同+0.5%)。前年同月比は+7.9%となり、前月から+0.7ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善。

工業生産指数(2014年12月まで：%)



出所：中国国家统计局、CEIC データベース

産業別に見ると、鉄道・輸送機器製造業(同+15.2%)、パソコン・通信設備製造業(同+14.3%)、有色金属圧延加工業(同+11.7%)、医薬製造業(同+11.2%)が高い伸びを示す一方で、専用設備製造業(同+3.8%)、電力・熱力生産・供給業(同+2.3%)は比較的低調な伸びにとどまった。

(3) 固定資産投資

2014年の固定資産投資(名目)は前年比+15.7%となった。累積ベースでは6カ月連続で減速している(1-11月期:同+15.8%)となっている。

産業別に見れば、第1次産業は同+33.9%(1-11月期:同+29.9%)、第2次産業は同+13.2%(1-11月期:同+13.3%)、第3次産業は同+16.8%(1-11月期:同+17.1%)となった。

固定資産投資 (2014年12月まで:%) (累積伸び率)

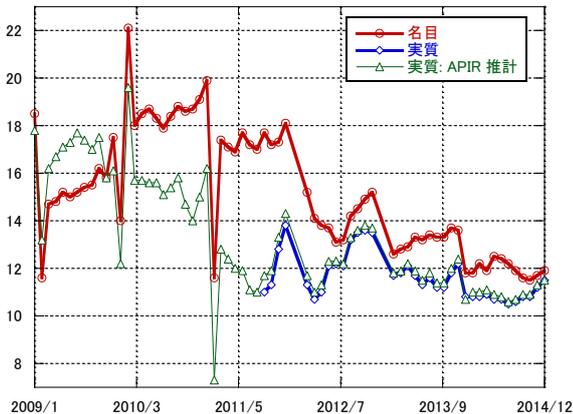


出所: 中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 消費

12月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+11.9%となり、前月(同+11.7%)から幾分加速した。消費は中国経済成長のエンジンと期待されており、2カ月連続のプラスとなった。

社会消費品小売総額 (2014年12月まで:%)



注: APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

出所: 中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 貿易動向

12月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比+9.7%増加し、9カ月連続のプラスとなった。輸入額は同-2.3%(速報値)となり、2カ月連続のマイナスとなった。

うち日本への輸出額は同-7.2%となり、5カ月連続のマイナスとなった。日本からの輸入額は同-0.1%となり、2カ月連続のマイナスとなった。

円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+7.0%となり、10カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同+15.1%となり、4カ月連続のプラスとなった。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年12月まで:%)



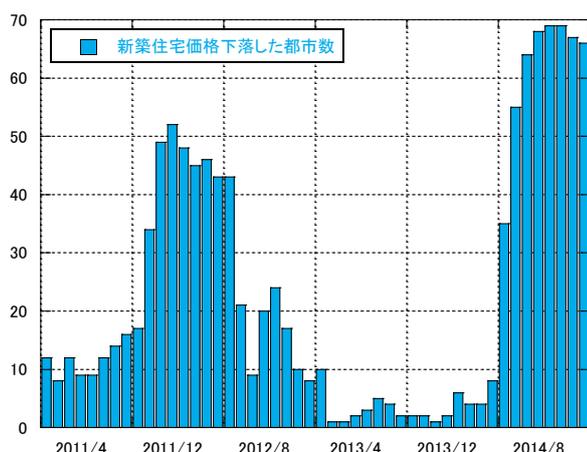
出所: 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

(6) 不動産市場

不動産価格を見れば、中国主要70都市のうち、12月は66都市の新築住宅価格が前月に比べて下落した。1都市の新築住宅価格が前月に比べて上がった。3都市が横ばい。下落した都市の数は11月の67都市より減少した。

不動産市場の減速により、中国経済は引き続き下振れリスクに直面している。

新築住宅価格の主要都市集計 (2014年12月まで: 都市数)



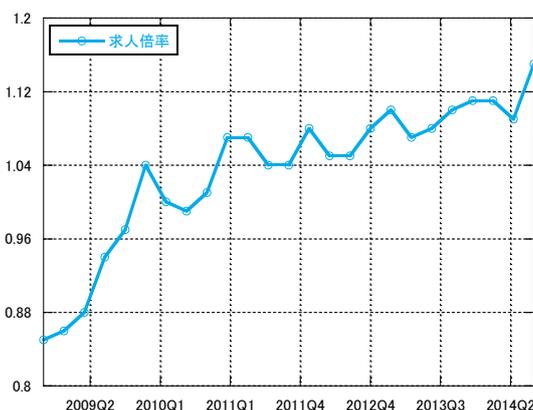
出所: 中国国家统计局; CEIC データベース;

(7) 求人倍率

10-12月期の有効求人倍率は1.15となり、7-9月期(1.09)より小幅上昇した。求人数は前期比-10.4%の減少、求職者数は同-13.0%の減少となった(105主要都市ベース)。

求人倍率を地域別に見ると、東部は1.14(前期1.06)、中部は1.15(前期1.06)、西部は1.17(前期1.20)となっている。西部の労働需給は相対的に逼迫している。

求人求職倍率 (2014年10-12月期まで)



(出所) 中国労働市場情報観測センター; CEIC データベース;

APIR 計算

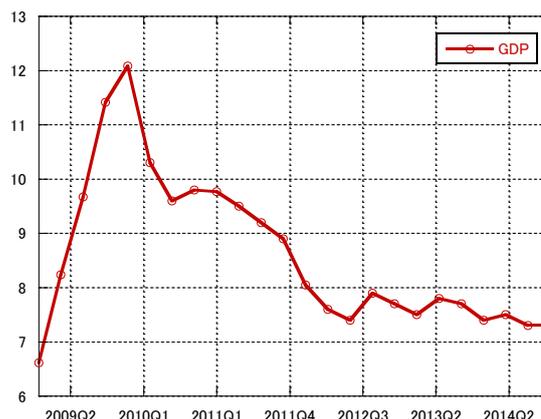
(8) GDP

2014年10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.3%となり、前期と横ばい。市場コンセンサスを上回る結果であった。しかし8%を下回る成長率が11期続いている。なお2014

通年の実質GDP成長率は前年比+7.4%で、2009年以来の低い値となった。

業種別にみると(通年ベース)、第1次産業の成長率は同+4.1%、第2次産業は同+7.3%、第3次産業は同+8.1%となった。

中国のGDP成長率(前年同期比) (2014年10-12月期まで: %)



出所: 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact: 岡野光洋・林万平・木下祐輔

Tel. 06-6485-7695,

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	13/09M	13/12M	14/01M	14/02M	14/03M	14/04M	14/05M	14/06M	14/07M	14/08M	14/09M	14/10M	14/11M	14/12M
景況感														
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	54.6	56.1	55.6	56.3	60.8	43.6	45.9	47.9	51.4	49.3	49.4	47.0	45.4	47.6
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	53.0	54.1	53.7	53.4	60.1	40.4	43.1	46.8	50.3	49.9	50.2	45.9	43.2	48.2
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	55.9	57.3	49.9	42.0	36.0	51.4	54.1	54.5	51.9	51.9	51.5	50.0	48.2	48.6
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	52.8	55.7	54.7	53.0	57.9	41.6	45.1	47.7	51.3	47.4	47.4	44.0	41.5	45.2
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	50.6	53.1	52.2	50.2	57.0	37.2	42.1	45.1	49.4	45.8	46.7	42.3	39.5	44.2
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	54.2	54.7	49.0	40.0	34.7	50.3	53.8	53.3	51.5	50.4	48.7	46.6	44.0	46.7
消費者心理・小売り														
[関西]消費者態度指数(原数値)	45.2	40.3	39.9	37.6	36.8	37.1	39.5	41.2	41.6	41.5	39.6	38.8	36.8	38.3
[関西]〃暮らし向き(原数値)	42.4	37.6	37.2	34.7	34.1	34.2	37.0	38.5	38.8	39.8	36.9	36.6	34.8	36.0
[関西]〃収入の増え方(原数値)	41.2	38.0	37.3	36.5	37.0	37.1	37.7	37.7	38.7	38.7	38.0	38.4	36.6	36.6
[関西]〃雇用環境(原数値)	51.1	46.5	48.6	46.3	45.3	44.5	45.7	48.4	48.4	47.7	45.7	43.7	41.4	44.2
[関西]〃耐久消費財の買い時判断(原数値)	46.2	39.2	36.7	33.0	31.0	32.5	37.6	40.1	40.4	39.8	37.9	36.3	34.4	36.4
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	45.4	41.3	40.3	38.5	37.5	37.0	39.3	41.1	41.5	41.2	39.9	38.9	37.7	38.8
[関西]兼用車新規登録届出台数(前年同月比)	14.0	24.6	28.2	20.8	20.4	-8.9	-2.5	-1.8	-1.4	-9.2	0.0	-5.9	-9.5	UN
[関西]家電販売額(前年同月比)	-5.1	-1.2	11.0	34.4	68.6	-18.4	-13.2	-12.3	-3.3	-10.7	-12.1	-11.0	-4.5	UN
[関西]大型小売店販売額(10億円)	289.4	415.9	333.0	286.6	377.8	281.1	303.7	314.0	335.1	311.0	294.1	308.1	33.5	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	2.6	1.0	1.0	3.4	19.3	-5.5	0.0	-1.0	0.5	2.4	1.6	1.0	1.7	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1505.9	2139.9	1711.7	1469.0	1956.2	1467.7	1592.4	1631.7	1717.4	1626.3	1531.3	1606.4	173.0	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	1.7	0.9	0.7	2.4	17.0	-6.1	-0.5	-1.2	0.3	2.8	1.7	1.0	2.0	UN
住宅・建設														
[関西]新設住宅着工(戸数)	13606.0	14737.0	11299.0	9592.0	11170.0	12424.0	10095.0	12018.0	10038.0	12764.0	11707.0	10816.0	12192.0	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比)	35.2	33.1	11.7	-13.3	2.5	16.9	-18.6	-1.6	-20.5	10.6	-14.0	-27.3	-12.5	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	88539.0	89578.0	77843.0	69689.0	69411.0	75286.0	67791.0	75757.0	72880.0	73771.0	75882.0	79171.0	78364.0	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比)	19.4	18.0	12.3	1.0	-2.9	-3.3	-15.0	-9.5	-14.1	-12.5	-14.3	-12.3	-14.3	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	83.1	72.1	72.9	80.6	75.4	73.7	80.0	73.4	73.6	71.8	78.4	73.4	81.6	75.6
[関西]マンション契約率(原数値)	80.5	69.9	65.2	77.4	77.8	74.3	85.3	76.4	77.1	71.7	76.9	74.1	80.9	73.0
[全国]マンション契約率(季節調整値)	83.5	75.3	83.2	80.4	76.4	74.1	77.5	73.9	83.5	71.9	71.5	65.2	79.0	70.3
[全国]マンション契約率(原数値)	83.5	76.1	78.6	80.6	79.8	74.7	78.9	76.6	83.7	69.6	71.6	63.3	78.4	71.0
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	167.5	112.6	94.3	78.9	132.2	187.0	173.7	188.3	164.5	116.7	148.5	150.4	88.9	97.2
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比)	51.4	37.8	33.2	-6.8	20.8	20.3	21.1	25.0	12.2	-2.0	-11.3	10.8	-20.0	-13.7
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1523.5	886.0	777.6	695.9	1456.8	1758.3	1312.6	1585.5	1627.3	1127.6	1398.4	1316.1	843.7	894.4
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比)	29.4	7.5	28.8	3.7	18.1	10.0	21.1	14.3	3.5	-8.1	8.2	-7.4	-10.4	1.0
[関西]建設工事(総合、10億円)	521.8	595.0	592.7	585.3	567.9	442.4	450.5	462.1	475.6	506.1	534.1	556.5	587.8	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比)	15.0	16.4	11.6	10.5	10.1	4.9	5.7	4.2	4.9	4.8	2.3	3.0	3.2	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4319.8	4920.2	4672.1	4607.0	4551.9	3512.0	3435.2	3634.4	3738.2	4030.9	4333.2	4522.6	4714.6	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比)	16.2	16.9	14.3	12.1	10.9	6.6	3.7	2.9	0.5	1.2	0.3	-0.6	-1.4	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	1811.8	2259.8	2111.5	2123.8	2124.6	1378.3	1301.1	1410.8	1485.5	1703.7	1933.3	2098.8	2247.4	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比)	26.7	20.9	15.7	14.7	13.8	9.7	9.4	9.4	6.3	8.7	6.7	5.1	3.5	UN
生産														
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	100.1	100.6	105.9	105.3	105.9	106.5	109.2	106.7	107.6	103.2	108.6	110.0	104.9	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	-0.3	0.4	5.3	-0.6	0.6	0.6	2.5	-2.3	0.8	-4.1	5.2	1.3	-4.6	UN
[関西]〃出荷指数(原数値、前年同月比)	-0.2	3.6	8.5	6.3	6.7	3.0	1.5	5.5	1.3	-1.7	7.9	7.2	-1.5	UN
[関西]〃在庫指数(原数値、前年同月比)	0.5	3.1	3.1	3.0	2.4	3.7	6.4	6.4	6.7	7.7	6.6	3.7	5.4	UN
[関西]〃出荷指数(季節調整値、10年=100)	99.8	101.7	107.5	106.3	106.7	102.4	102.8	102.9	101.6	99.2	106.5	107.7	102.5	UN
[関西]〃出荷指数(季節調整値、前月比)	0.0	0.1	5.7	-1.1	0.4	-4.0	0.4	0.1	-1.3	-2.4	7.4	1.1	-4.8	UN
[関西]〃在庫指数(季節調整値、10年=100)	112.6	114.4	114.9	114.5	112.8	114.9	117.5	117.6	120.4	119.8	120.0	117.6	118.1	UN
[関西]〃在庫指数(季節調整値、前月比)	1.2	2.1	0.4	-0.3	-1.5	1.9	2.3	0.1	2.4	-0.5	0.2	-2.0	0.4	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	98.6	100.0	103.9	101.5	102.2	99.3	100.0	96.6	97.0	95.2	98.0	98.4	97.9	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.5	0.5	3.9	-2.3	0.7	-2.8	0.7	-3.4	0.4	-1.9	2.9	0.4	-0.5	UN
[全国]〃出荷指数(原数値、前年同月比)	4.6	6.4	9.3	6.5	6.5	2.4	-0.8	2.2	-0.1	-3.7	1.7	-0.4	-4.5	UN
[全国]〃在庫指数(原数値、前年同月比)	-3.5	-4.3	-3.9	-3.4	-1.4	-1.9	0.8	2.8	2.9	4.6	4.0	3.8	6.5	UN
[全国]〃出荷指数(季節調整値、10年=100)	97.7	99.3	104.4	103.4	103.2	98.0	97.0	95.2	95.9	93.9	98.0	98.6	97.2	UN
[全国]〃出荷指数(季節調整値、前月比)	1.7	0.2	5.1	-1.0	-0.2	-5.0	-1.0	-1.9	0.7	-2.1	4.4	0.6	-1.4	UN
[全国]〃在庫指数(季節調整値、10年=100)	107.5	105.5	105.1	104.2	105.7	105.2	108.4	110.6	111.6	112.6	111.8	111.3	112.5	UN
[全国]〃在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.1	-0.2	-0.4	-0.9	1.4	-0.5	3.0	2.0	0.9	0.9	-0.7	-0.4	1.1	UN
労働														
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比)	-0.5	-0.6	-0.8	-0.3	0.8	0.3	0.8	2.4	2.2	0.2	0.6	UN	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比)	-0.5	-1.0	-0.5	-0.4	0.6	0.1	0.6	2.3	2.2	0.1	0.5	1.1	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比)	-0.2	0.5	-0.2	-0.1	0.7	0.7	0.6	1.0	2.4	0.9	0.7	0.2	0.1	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	4.1	3.9	4.1	4.1	4.1	4.2	4.0	4.5	4.7	4.0	4.2	4.1	3.7	UN
[関西]完全失業率(原数値)	4.1	3.6	4.2	4.3	4.4	4.3	4.0	4.2	4.7	4.0	4.1	4.3	3.6	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	4.0	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.5	3.7	3.8	3.5	3.6	3.5	3.5	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	1.42	1.58	1.56	1.63	1.62	1.55	1.55	1.61	1.57	1.56	1.57	1.61	1.58	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	1.50	1.64	1.63	1.67	1.66	1.64	1.64	1.67	1.66	1.62	1.67	1.69	1.66	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	0.89	0.96	0.98	1.00	1.00	1.01	1.02	1.02	1.03	1.03	1.01	1.02	1.03	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	0.95	1.03	1.04	1.05	1.07	1.08	1.09	1.10	1.10	1.10	1.09	1.10	1.12	UN
国際貿易														
[関西]純輸出(10億円)	-34.3	-77.0	-461.8	51.8	-112.4	-10.7	-26.2	-22.5	-63.1	44.4	-65.6	2.3	-21.9	UN
[関西]輸出(10億円)	1254.4	1308.4	1087.7	1212.5	1351.7	1312.7	1231.3	1288.9	1310.8	1273.6	1348.5	1425.3	1322.6	UN
[関西]輸出(前年同月比)	5.3	10.6	10.3	15.0	3.1	8.6	1.2	1.5	5.5	1.3	7.5	11.0	6.5	UN
[関西]輸入(10億円)	1288.7	1385.4	1548.3	1160.7	1464.0	1323.4	1257.4	1311.4	1373.9	1229.1	1414.1	1423.0	1344.5	UN
[関西]輸入(前年同月比)	15.9	22.6	26.6	7.6	20.2	2.8	-0.2	13.9	0.6	-1.7	9.7	1.9	-0.3	UN

注1：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く

Release Calendar for APIR Monthly

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
29-Dec	30-Dec	31-Dec	1-Jan 中国製造業 PMI (12月)	2-Jan
5-Jan	6-Jan	7-Jan	8-Jan	9-Jan 中国輸出入 (12月:速報値) 近畿貿易統計 (11月確速)
12-Jan 中国求人倍率 (10-12月期)	13-Jan 景気ウォッチャー調査 (12月)	14-Jan 近畿鉱工業生産指数 (11月速報)	15-Jan 商業動態調査 (11月:確報値) 公共工事前払保証額 統計(12月)	16-Jan 毎月勤労統計 (11月:確報値) 建設総合統計(11月)
19-Jan 全国鉱工業生産指数 (11月:確報値) 消費動向調査(12月) 中国不動産市場 (12月)*	20-Jan マンション契約率 (12月) 中国工業生産(12月) 中国固定資産投資 (12月) 中国消費小売総額 (12月) 10-12月期中国 GDP	21-Jan	22-Jan	23-Jan
26-Jan 全国貿易統計 (12月:速報) 近畿貿易統計 (12月速報) 近畿鉱工業生産指数 (11月確報)	27-Jan	28-Jan	29-Jan 商業動態調査 (12月:速報値) 全国貿易統計 (12月:確速)	30-Jan 新設住宅着工(12月) 求人倍率(12月) 完全失業率(12月) 全国鉱工業生産指数 (12月:速報値)